

村松地区 村政懇談会

日 時：平成 27 年 8 月 24 日（月） 午後 7 時から 9 時まで

場 所：村松コミュニティセンター 多目的ホール

出席者：村執行部（村長，副村長，教育長，村長公室長，総務部長，村民生活部長，福祉部長，建設農政部長，教育次長，議会事務局長） 計 10 名

事務局（課長，課長補佐，自治推進課職員 3 名） 計 5 名

自治会長（照沼区，宿区，川根区，原子力機構箕輪区） 計 4 名

自治会連合会（副会長，事務員 1 名） 計 2 名

参加者：宿区 18 名，照沼区 10 名，川根区 4 名，原子力機構箕輪区 2 名，
その他 30 名 計 64 名

総計 85 名

司会進行：照沼区自治会長

《次第》

1. 開会
2. 出席者紹介（自治会長及び村執行部）
3. 地区自治会長あいさつ
4. 村長あいさつ並びに村政に関する説明・質疑応答
5. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答・質疑応答
6. 自由質問
7. 閉会

《記録》

【4. 村長あいさつ並びに村政に関する説明後の質疑】

照沼区住民：（配布資料村政運営の基本方針 P.2）5 番についての質問。バスの路線が整備されたのは良いことである。バスのコースは茨城東病院停留所から国道 245 号線を通りジョイフル本田まで行くと思うが，住宅密集地を通過していない。住宅地を通るコースに変更ができないか。茨城東病院から長砂直売所までバス停がない。

村長：正直難しい。村でコミュニティバスを走らせれば対応できるが，デマンドタクシーを残しながら村のコミュニティバスが住宅地に入るようにすると重複してしまう。路線バスは幹線道路しか走らない。それは路線バスの宿命なので，細かくまわる場合はコミュニティバスを使わなくてはならない。ただ費用対効果を考えるとコミュニティバスは相当な経費がかかり，福祉バスを止めてデマンドタクシーに変えた経緯を考えると利用者もデマンドタクシーの方が良いのではないかと思う。デマンドタクシーと路線バスを上手く使ってほしい。路線バスは事業者の事業活動の中の路線バスなので，気持ちは分かるが路線を変えるのは難しい。それをどうするのか考えるとデマンドタクシーを利用してもらうしかないかと思う。

照沼区住民：国土交通省に届出していたバス停が旧道にある。新たに設置するのでは

村松地区 村政懇談会

なく、今ある路線を使用すれば支障はないのではないかと。機会があれば検討をお願いしたい。

宿区住民：(配布資料村政運営の基本方針 P.2)6 番の環境モデルについての質問。太陽光発電が増えたが東海村に何ヶ所ソーラーパネルは設置されているのか。太陽光発電は環境に良いと言っているが環境を壊しているのではないかと。東海村のまちづくりなどの関係から見ると相反していないか。畑の耕作を止めたのでそこにソーラーパネルを設置したと聞くと我々は今まで何をやっていたのかとってしまう。ソーラーパネルが設置された事で昔に比べて景観が変わってしまった。ソーラーパネルは一見良さそうだが、そのまま放置して良いのか。村として何らかの管理をしていくべきではないか。

村長：確かに村の中心にかなりソーラーパネルが設置された。基本的には民民間の事なので現時点でソーラーパネルについての行政指導を行うのは難しい。また、景観に配慮しての規制は難しい。事業者地域への説明を要望する程度しかできないため、かなりハードルは高い。役場の一人よがりになってしまうが、公共施設内で活用できる場所では太陽光発電を活用しており、公共施設の電気消費量の 2 割を太陽光でまかなっていきたいと考えている。総合福祉センター「絆」の駐車場スペースや東海中学校の体育館など、あまり使われていない場所の有効活用を考えている。村松の条件の良い場所全てにソーラーパネルを設置するなどは考えていない。ソーラーパネルの設置がかなり多くなった時に景観としてどうなのか。今後一つのケースとして検討していくことになるかと思う。

【5. 地区自治会からの事前質問・要望に関する回答後の質疑】

川根区住民：(地区自治会からの事前質問・要望に関する回答P.1)川根区自治会の質問。駆け上がり線の信号前の混雑の話であり、二車線化の話があったが、原子力機構に入る車が多い事も渋滞の原因の一つではないか。原子力機構の入り口が道路に面しているところにあるのも、渋滞の原因ではないかと考えられる。事業所のため難しいとは思いますが、何か村で対応してもらえないか。対応してもらえれば若干でも混雑が解消するのではないかと思う。

建設農政部長：少し奥の方に入れば確かに渋滞が解消すると思う。宿区の方たちと一緒に話し合いを行い、申し入れや協議をしていければと考えている。また、245号線の拡幅についても時間がかかるため、両方一緒に進めていければと思う。

川根区住民：事前質問の文章は私が作成した。原子力機構は前よりも良くなったが、まだまだ原研通りよりも通行量が多い。提案者としてよろしくお願ひしたい。

建設農政部長：協力し協議して一緒に交渉していきたい。

宿区住民：(地区自治会からの事前質問・要望に関する回答 P.1)245 号線の拡幅につい

村松地区 村政懇談会

て。国道 245 号線の虚空蔵尊の入り口から坂を上った途中に、ガードが直角に作られている。昔は国道 245 号線を斜めに突っ切る村道だった。それが県の設計で直角のガードになった。そのガードは農耕者、通勤者、村松地区にとっては重要な幹線道路である。しかし、ガードの入口まで行かないと対向車の確認ができずガードも非常に狭い。またガードの入り口に面する村道は鋭角にハンドルを切らないと入れない。村松地区の住民にとって難渋している箇所である。要望だが、245 号線の拡張工事に伴ってガードの設計を昔のように斜めに切ってもらいたい。また、東側との西側の幅を道路幅以上に広げてもらいたい。宿の居住地から入ると道路が三本ある。地区側の三本の道路に対してラップ状に広げてもらい、手前からガードに入るにしても対向車が来るにしても容易に車が入れるような広さにしてもらいたい。そのような要望である。

建設農政部長：質問は国道245号線の下を通る道路かと思う。現在245号線の用地買収が順調に進んでおり、工事についても協議を進めたところである。その件について大宮土木事務所からもどのくらいの広さが必要なのか用地買収の中で意見を少しもらっている。今後どのように斜めに広げられるかは分からないが、協議の場は現在持っているところなので、今後地域の方と一緒にどのような形が良いのか話していきたい。ただ県は現状の部分のみの負担しかないと、大きくなった場合は財政負担等の問題が出てくる。そのあたりも含めて協議していきたい。

宿区住民：東海村にも県会議員がいるので、県会議員へ要望して欲しい。駅東からの五反田線の延伸ができなかった。費用負担の話であれば、五反田線の延伸費用を出したつもりで負担するようにしてもらいたい。

建設農政部長：協議をしていく。可能な限り努力をしていきたい。

【6. 自由質問】

川根区住民：人口問題について。住みたいと思える人が少なくなるため人口が増えないのではないかと思う。住みたい地域を作るためにはどうするのか。川根は新川に沿って家が建っており、ぽつぽつと街灯が立っているが夜は暗く人家も少ない。ここに人が住んでいないように思われてしまうため、街灯をつけて明るくしてもらいたい。また、人口を増やすためにどのようにしていくのか考えを聞きたい。

村長公室長：人口をどう増やしていくのかという質問に回答させてもらう。国を挙げて人口を増やしていこうと地方創生という事業に取り組んでいる。その取組の中で総合戦略を作っているが、あわせて村の人口の将来ビジョンを作っている。それは3万7千から3万8千人の人口をどう持っていくのかという全体での人口ビジョンである。東海村の人口は全体ではなく地域別で見るとかなり差がある。急激に増えている地域もあれば、反面に減少している地域もある。東海村には6つの小学校区があるが、照沼小学校区は人口減少が著しい地域である。村としても今後この地区をどのように活性化させていくのかは非常に重要な課題である。以前村政懇談会の場でひたちなか地区

村松地区 村政懇談会

の後背地としてこの地域をどういう風にしていくのか、後背地計画をどのようにつくるのかという質問を受けたかと思う。村として後背地計画はできていないが、その度ごとに照沼笠松線の進捗状況を見ながら計画の方は立てていきたいと答えている。しかし、照沼笠松線の245号線から先については県にも要望しているがなかなか先が見えていない状況である。ひたちなか地区についても後背地がかなりあり、その土地もなかなか売れない。売れたとしても商業施設であり、当初描いたまちづくりにはなっていない状況である。照沼小学校区はひたちなか地区の後背地という位置づけの中から後背地の計画を立てるよりも、むしろ人口減少が著しいため、この地域をどのように活性化していくのかに焦点を当てて、計画を立てていく必要がある。その計画は村だけで立てるという訳にもいかないので、地域の皆さんと一緒に考えていきたい。特効薬はないため、地域の皆さんの知恵を借りたい。

建設農政部長：防犯灯の設置について一般的な話をしたい。川根地区の集落沿いに防犯灯を沢山つけたほうが良いという提案だが、稲の生育状況など農作物の被害も出ているところもあるためそこも考えていきたい。だが防犯上危ないというのであれば一緒に協議して付けていければと思う。一律に明るくするというのはなかなか難しい。

村長：人が来るようになり、そこで仕事生まれるのであれば、そのままその場所に住むこともありえる。単純に道路整備をただけでは通過地域になってしまう。ここに立ち止まる何かを作りたい。虚空蔵尊に立ち止まり、人が集まり、滞留してもらえそうなものも考えなくてはならない。そうやって人が集まる事で仕事にもつながり、定住も考えられる。それには時間はかかる。だが国道245号線の拡幅は唯一のチャンスであり、この地域の活性化の起爆剤だと思っている。夢物語のような綺麗な絵を描いているが本当にそのようにできれば素晴らしい。議会の了解も得ながら行っていきたい。このような明るい話ができる地域は東海村にはなかなかない。この地域が圧倒的に変わってくるという期待感を持てるものがある。みなさんと話し合いをしながら進めていきたい。

宿区住民：小学校入学時期のランドセルの贈呈について。6月の定例議会である議員から質問があった。回答内容や答弁については議会便りを見たが、茨城県内44市町村の中で10市町村がランドセルの贈呈を行っている。また、来年度2～3市町村がこの事業を検討している。ランドセルの贈呈で保護者の負担が減り、子育て支援にもなる。ランドセルの贈呈を東海村でも前向きに検討してもらいたい。

教育次長：ランドセルについては6月議会でも回答しているとおりである。例えば今年402名が小学生になったが、ランドセルを平均4万円と考えると、1千6百万円程の経費がかかる。東海村はスタディサポーターや図書館指導員の人的な配置も含めて、限られた財源を有効に活用するために、給付型というより教育内容の充実をさせていきたいと考えている。

村松地区 村政懇談会

川根区住民：避難計画について。実際に避難計画を実施してみなければパニックになるのは明らかである。シナリオを作ってもその通りにはいかない。絵に描いた餅になってしまう。避難計画はいつまでにできるのか。その計画は年内で終わるのか。

村長：村単独で行うのは非常に難しい課題である。今机上で行っているので実際にどうなるのかは実施しないと検証できない。ただこれを実施しようとするとうるまや周辺の市町村も含めた総合的な避難訓練になる。今年度末までには作成しようと考えているが、できるだけ早い時期に県として避難訓練を実施しないといけない。県警や自衛隊なども様々な機関を動員するので県が中心となって行っていく。その前に計画を作らないとどう動いて良いのか分からないため、総合避難訓練がいつ可能かは言えないが、机上での避難計画だけは進めていきたい。

照沼区住民：先ほどの村長あいさつであった東海村に愛着心を持っている子供が多くいるという話に安心した。東海村も60周年になり、先人たちの努力のおかげで住みよい町ができた。昭和30年頃に原子力研究所が設置され、まぶしいかぎりのものだった。原子力で東海村は発展したと思うが、3.11の東日本大震災により原子力が大悪人になった。原子力には良い面も悪い面もある。「東海村は危険である」と書かれた看板がある。そのような看板に子供たちは惑わされないのだと安心した。看板に書いてあるのは放射線の範囲などまさしくそのとおりのことが書いてある。ただ非常に納得のできない看板であり、不愉快な看板である。あの看板について村の考えを聞きたい。

村長：非常に答え辛い質問である。議会でも取り上げられた。その時と同様に残念な思いとしか言えない。あの看板をどうしろとは、私の個人的な意見は言えない。看板について条例の中で指導できるのは大きさや道路から何メートル離すとといった外形的なものである。内容は表現の自由が優先されるため、村がどうしろとは言えない。ただ看板への感想を聞かれれば残念な思いとしか言えない。

照沼区住民：東海村は60年間原子力と歩んできたため良い話ではない。東海村の住民がこれから原子力とどのようにつきあっていくのかを考えると、あの看板は勝手なことだと思う。先ほども言ったが、学生があのような看板に惑わされていないということに安心した。

照沼区住民：質問の前に街路灯と防犯灯の定義と設置基準を教えてください。その回答によって質問したい。

建設農政部長：街路灯と防犯灯の区別だが、都市計画等のライトが大きく自動車の走行の安全のための、ハイウェイや交差点などにある大きなライトが街路灯である。防犯灯は地域の安全のために、電柱に付いていたり単独で立てたりするものである。そのため街路灯のほうが明るく、防犯灯の方が小さく暗めである。設置基準だが今資料が手元にないため詳細は答えられないが、電柱1本おきなどの基準はある。

照沼区住民：東海南中に照沼区から沢山の子供が通学している。駆け上がり線は全

村松地区 村政懇談会

て道路を照らす街路灯しかない。全ての照明が道路を照らしている。中学生は自転車通学が多いが、川根区から船場の十文字までの道路が狭く、道路が併走すると非常に危ない。また、中央公民館から平原団地入口付近までの灯りを調べたところ電柱3~5本間隔に1つ照明があったが全て道路を照らしていた。子どもたちが安全に安心して通学させていく必要がある。平原団地入口付近から新川に向かっての約250メートルの道には防犯灯も街路灯もない。農作物もLED等の照明をつければそれほど支障がないのではないか。そのあたりにどのような見解をもっているのか。防犯灯の設置について要望したが、車道にしかないと、そのあたりの設置を平行したほうが良いのではないか。

建設農政部長：動燃線の歩道が狭く木が邪魔になっているのは承知しており、何度か要望があって木を切ったりしている。また、照沼小学校から郵便局の間に防犯灯が少ないという事なので現地の方と一緒に現場を確認し、どこにつければ良いのかという事も含めて確認作業を行いたい。

照沼区住民：早急に対応してもらいたい。

建設農政部長：できるだけ早めに対応したいが、基準は防犯灯とカーブミラーは6月までとなっている。予算の許す範囲で対応させていただきたい。

照沼区住民：6月までと言われても村政懇談会は今である。我々は村政懇談会でしか言いようがない。

建設農政部長：自治会の要望として出してもらいたい。

照沼区住民：東海南中学校の通学路の問題は照沼だけではなく川根も押延も含まれており自治会をまたがっている。自治会をまたがっている要望も受けてもらえるのか。そのような答弁はおかしい。

宿区住民：何ヶ月前のテレビで硯の鑑定を教育長が受け、大変高い評価を受けていた。その硯に限らず東海村の歴史が一望に分かる施設が東海村にない。最近細浦・真崎浦の歴史を知る機会があり、個人的に紙芝居にしようとして動いている方もいる。紙芝居は図書館の記念祭りで行うと聞いた。そのような東海村の歴史が分かる施設が東海村には必要なのではないかと危惧しているがどうか。

教育長：その前に照沼小学区の子童減少についてだが、今年度入学した1年生が11名であり、男の子4名ではリレーができない状況である。照沼小学校区に家を建てようと思われるような努力の一つとして、小規模校の良さとしての家庭的な温かみだけではなく地域と一体となって活動しているという事や、照沼小から全員水戸一校に入るなどの学力を伸ばすといった照沼小学校の強みを発揮したい。また隣の村松地区の認定子ども園と照沼小学校と交流を図っており、照沼小に入りたいという子どもを増やしたいという努力を考えている。次に、ランドセルの件で先程教育次長から話はあったが、東海村は一時的な給付型よりも継続的な子育て支援を行いたいと考えている。他の市町村とは違う形だと思う。9月5日には読み聞かせをしながら子育て支援に關す

村松地区 村政懇談会

る交流会も行う予定である。東海村はそのような形で子育て支援を行っていきたくて考えている。質問の東海村の歴史を残したいということだが、私もそう思っている。議会の議決をもらい、消防署の横の雑木林に「(仮称)歴史と未来の交流館設立予定地」という看板をかけさせてもらった。あの場所を東海村の歴史を発信する場所にしていこうと考えている。生涯学習課では10月の頃に船着場を中心にしながら真崎の干拓も含めた歴史を子どもたちに知らせていこうという考えを持っている。また、同じく秋に石神の久慈川に行き、東海村には久慈川も含めて川の繋がりと鮭の塩引きと言われる伝統を伝えていこうという取組をしていきたい。(仮称)歴史と未来の交流館は川からずっと伝わってきて今の東海村があるという事や川の歴史を展示していきたくて考えている。それと同時に展示だけではなく、例えば(仮称)歴史と未来の交流館設に集まり虚空蔵尊まで歴史散歩ができたり、石神城址公園に行けたりするなどの子どもたちが活動し発信できる場を作っていきたい。65歳から75歳までのアクティブシニアといわれる元気に活躍する高齢者の方をスタッフに取り入れながら取り組んでいきたい。

川根区住民：新川について。新川は去年と一昨年決壊した。幸い田植え前や稲刈り後だったため作物の被害はなかった。今年ボーリングをやっていると聞いた。新川のボーリングはどのような計画で行っているのか。去年も村政懇談会で新川決壊の要因の質問が出たと思うが、決壊の要因として泥が溜まって川が狭くなったという事が考えられるのではないのか。計画のなかに泥抜きなども含まれているのか。その辺りも含めて今後の計画を聞きたい。

建設農政部長：新川についてだが今年度ボーリング調査として実施設計を出しており、2月くらいまでの予定である。また、次年度28年度と29年度の2ヵ年において工事予定である。工事の内容だが砂の除去と護岸ブロックの悪い箇所を取り、もう一度新しいものでやり直す。また、そこまで悪くないところは一度護岸ブロックを取って遮水シートを下に貼る。どの区間をやるか今調査のために実施点検を行っている。質問の通り、砂の堆積も一つの決壊の原因であるため、その撤去も含めて2ヵ年で工事を予定している。

照沼区住民：認定こども園の津波の避難について。万一の場合は新川を渡って平原のほうに避難するという回答を以前もらったが、今でもそうなのか。小さな子供たちが歩くことを考えると平原に行く間に津波に飲み込まれる可能性がないと言えない。避難をさせるのであれば小学校の方が近場であり高台で一番安全なのかと思うが、避難場所は変わらないか。

福祉部長：子どもたちの避難については、私が着任してから話はないため基本的には変わっていない。新川を横切っていく危険性もあることから担当課と協議をさせてもらいたいが、今のところは変わっていないと回答する。

村松地区 村政懇談会

照沼区住民：是非検討してもらいたい。安全な方向で避難できるようにお願いしたい。

川根区住民：昨年の村政懇談会で川根区から駆け上がり線の全面改修の話を出した。大型ダンプが通ると振動があり，周りの住民に被害を与えていると話したところ，都市計画道路については調査点検を行い，その結果を元に優先順位を決めて順次整備を行っていく。また，通行時の異常な振動や騒音について民家に被害が発生しているという事なので現地確認を行うという回答をもらった。その後現地確認を行ったのか。

建設農政部長：橋の袂のあたりは一部補修した。都市計画の調査は昨年度実施し，補修工事を昨年度から一部悪いところから順番に行っている。動燃線については予算もかなりかかるので来年度一部実施予定である。予算のつき具合によってだが，国道245号線付近が酷いためその辺りの改修を予定している。

川根区住民：周りの住民からの苦情があるのでできるだけ早い改修をお願いしたい。

照沼区住民：個人番号カードについて。配布資料のチラシにあるステップ2(同封されている個人番号カード交付申請書に，顔写真を貼り付け，返信用封筒に入れて，ポストに投函)で提出しないと更新できないのか。また，顔写真を貼って役場に返さないとその先に進まないのか。

総務部長：村長も冒頭で言っていたが個人番号カードは必要であれば交付を受けてくださいという話だった。個人番号カードの交付には通知カードと免許証と写真の載っている書類が必要と話した。場合によっては個人番号のみで活用もできるが，できれば個人番号カードも発行した方が良く考えている。ステップ2の質問だが，個人番号カードは顔写真の掲載があるため，写真を撮って書類に貼り市町村に郵送で送り返すようお願いしたい。

照沼区住民：お願いしたいのではなく，やりたくない人はどうするのか。

総務部長：強制ではない。

照沼区住民：メリットとデメリットがはっきりしないとよく分からない。

総務部長：個人番号カードに伴う詳細は9月にも広報とうかいに掲載するのでそちらのほうも見てもらいたい。

宿区住民：村から送付される書類には連絡先が必ず入っているが，その氏名が姓しか書かれていない。その氏名の職員が2人いる場合，どちらの職員か聞かれても分からない。職員がフルネームでは何か支障があるのか。

総務部長：フルネームでも問題はない。今のように同じ姓の職員が二人いて混乱させてしまうようであればフルネームにするように周知したい。

照沼区住民：個人番号カードだが写真を撮って送っても数年後にひげの有無や高齢者が急変することはあるかと思う。再発行はできないと話があったが，期限がないのであれば写真への対応はどうするのか。

総務部長：個人番号カードの有効期限については，マイナンバー制度の冊子を家庭に

村松地区 村政懇談会

配布したかと思うが、その12ページに有効期限の問い合わせがあり、20歳以上は15年に再発行、20歳未満は容姿の変更を考慮して5年と書かれている。そのような有効期限がある。

以上